

種のくる道

伝統野菜（在来作物）に興味を持ったのは、平成7（1995）年ごろだろうか。この年、いわき市は『いわき市伝統郷土食調査報告書』を発行する、いわき地域学会が調査・編集を担当した。その編集に携わる一方、週末に通い始めた夏井川溪谷の小集落で、在来種の「三春ネギ」の苗を譲り受け、やがて種を分けてもらい、ささやかながら家庭菜園を始めた。

「三春ネギ」はいわきの山里に接する田村郡から種（あるいは苗）が持ち込まれたに違いない。一方、平地の在来種である「いわき一本太ネギ」は、常磐線の開通に伴って流入した「千住一本ネギ合柄」だ。同じ夏井川流域でも「種のくる道」が違っていた。「三春ネギ」は秋まき、「いわき一本太ネギ」は春まきと、栽培方法も異なる。

ネギだけでも実に多様な品種が栽培されている。「九条ネギ」、「下仁田ネギ」、「金沢一本太ネギ」、福島県内では「阿久津曲がりネギ」（郡山）、「源吾ネギ」（須賀川）。昔はそれこそ、伝統野菜が当たり前で栽培されていた。高度経済政策がその流れを断ち切った。

研究者の話を要約すると、こういうことらしい。高度経済成長期、大都市へ集中した人間の食生活を維持するため、野菜産地では大量生産による品種の単一化が進んだ。作りやすく、形や品質がそろった一代雑種（F1 品種）も普及した。その結果、伝統野菜は冬の時代に入った。やがて、バブル期、「飽食の時代」を迎えると、新野菜やハーブ、山菜などが食卓を彩るようになる。すると、自家採種をして栽培してきた伝統野菜が再評価され、直売所や宅配で販売されるようになった。ガーデニングや家庭菜園がはやり、地域独特の野菜に目を向ける人が増えたことも、在来種の復権に拍車をかけた。

さて、それではいったいどんな在来作物がいわきにあるのか、どんな伝統野菜が栽培されているのか。その調査結果がこの冊子に盛り込まれてある。

伝統野菜は自家採種～栽培～自家消費という、限られた円環のなかで種の再生産が行われている。流通経路には当然、のらない。このため、採種に失敗すると栽培は途切れることになる。「いわき野菜」を調べ、記録するのは、いうまでもなく未来に向かってそれらを保存し、継承し、発展させるためである。地域の風土に根ざした野菜はそれ自体、生きた文化財である。大切な地域の遺伝資源である。次のステップは「自産自消」から「地産地消」へ、であろう。

いわき地域学会代表幹事 吉田 隆治

いわき昔野菜図譜 目次

種のくる道 いわき地域学会代表幹事 吉田 隆治	1
-------------------------------	---

いわき昔野菜図譜・調査地一覧	4
----------------------	---

淡色野菜

昔きゅうり	6
小白井きゅうり	8
ニラ	12
ユウガオ	14
おかごぼう	18

緑黄色野菜

十六ササゲ	22
千住一本ねぎ合柄(いわき一本太ねぎ)	26
とうな	30
カラシナ	32
茎立菜	34

穀 類

キビ	36
蕎麦	38

種 子

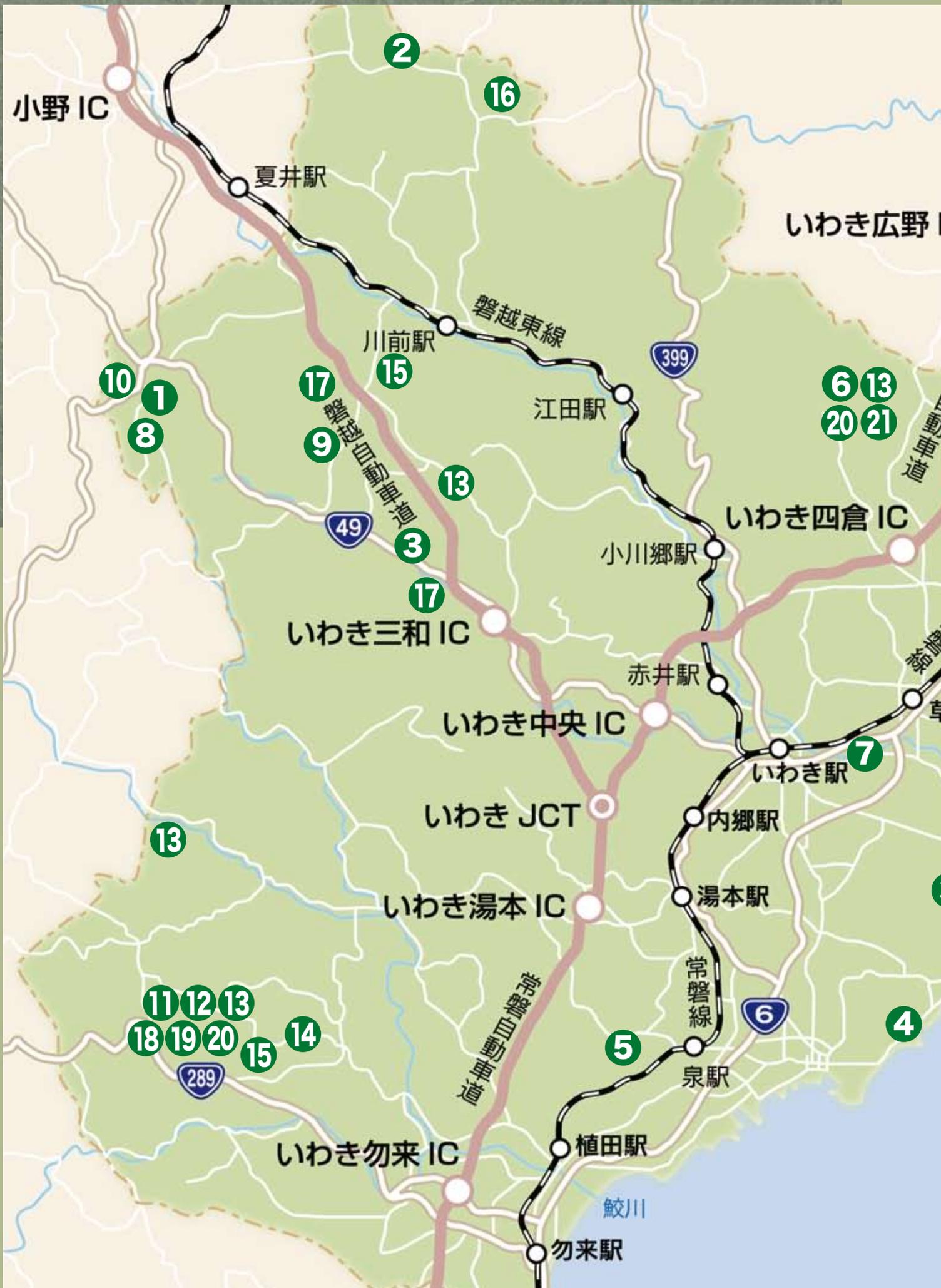
じゅうねん	42
-------	----

塊 茎 類

自然生(蒟蒻)	46
蒟蒻	48
ワサビダイコン	52

豆 類

むすめきたか	54
のりまめ	56
さとまめ	56
親孝行豆	58
白いんげん	59





いわき昔野菜図譜 調査地一覧

- ① 昔きゅうり ●三和町上三坂地区
- ② 小白井きゅうり ●川前町小白井地区
- ③ ニラ ●三和町渡戸地区 ●平下大越地区
- ④ ユウガオ ●永崎川畑地区
- ⑤ おかごぼう ●渡辺町田部地区
- ⑥ 十六ササゲ ●大久町大久地区
- ⑦ 千住一本ねぎ合柄(いわき一本太ねぎ) ●平北白土地区
- ⑧ とうな ●三和町上三坂地区
- ⑨ カラシナ ●三和町差塩地区
- ⑩ 茎立菜 ●三和町上三坂地区
- ⑪ キビ ●田人町荷路夫地区
- ⑫ 蕎麦 ●田人町荷路夫地区
- ⑬ じゅうねん ●三和町 ●田人町 ●大久町大久地区
- ⑭ 自然生(蒟蒻) ●田人町黒田地区
- ⑮ 蒟蒻 ●田人町黒田地区 ●田人町荷路夫地区
●三和町差塩地区 ●三和町永井地区
- ⑯ ワサビダイコン ●川前町下桶売地区
- ⑰ むすめきたか ●三和町地区
- ⑱ のりまめ ●田人町荷路夫地区
- ⑲ さとまめ ●田人町荷路夫地区
- ⑳ 親孝行豆 ●大久町大久地区 ●田人町荷路夫地区
- ㉑ 白いんげん ●大久町大久地区